平成27年5月
公安調査庁

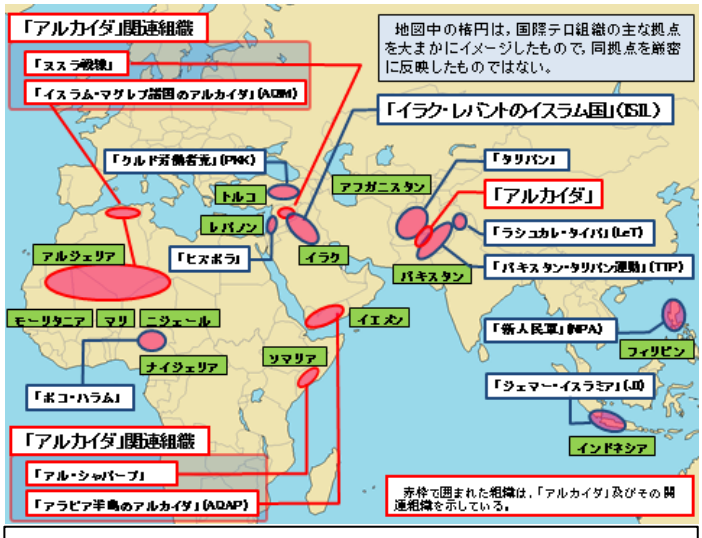
「国際テロリズム要覧2015」の要点

1 国際テロ情勢

○ 中東・アフリカ及びアジア地域を中心に世界各地でテロが発生。シリアでは，邦人殺害テロ事件が発生

○ 欧米においても「ホームグロウン・テロリスト」やシリアなどから帰国した「戦闘員」の脅威が顕在化

○ 今後も世界各地でテロの発生が懸念。我が国でも，その脅威を踏まえ，引き続き警戒する必要



本要覧掲載の注目される国際テロ組織

2 注目される国際テロ組織などの動向

○ 「イラク・レバントのイスラム国」（ISIL）は，イラク，シリア両国の広域を事実上の支配下に。「アルカイダ」との事実上の断絶を表明するとともに，「カリフ制国家」として「イスラム国」を自称，自組織の最高指導者がイスラム世界で最高の権威であると位置付け

○ 中東域外で，ISIL支持のイスラム過激組織が現れ，ISILへの忠誠を表明。ISILは，北アフリカや西アジアなどの地域にも影響力を拡大しつつ，上記邦人殺害テロ事件等を実行，「タリバン」や「アルカイダ」以上の存在感を誇示

○ 「アルカイダ」は，ISILとの事実上の断絶や幹部の死亡・拘束などの打撃を被るも，「アルカイダ」関連組織などに対する影響力保持を企図。「アルカイダ」関連組織は，中東・アフリカなどで活動範囲を広げ，依然としてテロを継続

○ ISILや「アルカイダ」などは，インターネットを利用し，過激思想などを広め，「ホームグロウン・テロリスト」となり得る若者の感化を企図

3 我が国をめぐる国際テロの脅威

○ シリアにおける邦人殺害テロ事件など，海外におけるテロ事件において，邦人が被害に遭うケースが発生

○ ISILや「アルカイダ」がテロの対象として我が国を名指し

○ 国際テロ組織関係者が過去に入出国を繰り返し